



「自転車でゆく上高地 (2) 恐怖の釜トン」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

旧道の駐車地点から、釜トンネルの入口までは、一気に下り坂だ。トンネルの入口には警備員さんが何人も立っているが、今までは自転車はフリーパスだった。(というよりも、自転車は完全に無視されていた。) 今回もそうだろうな・・・と思っていたら、「はい、ちょっと待って!」と呼び止められた。


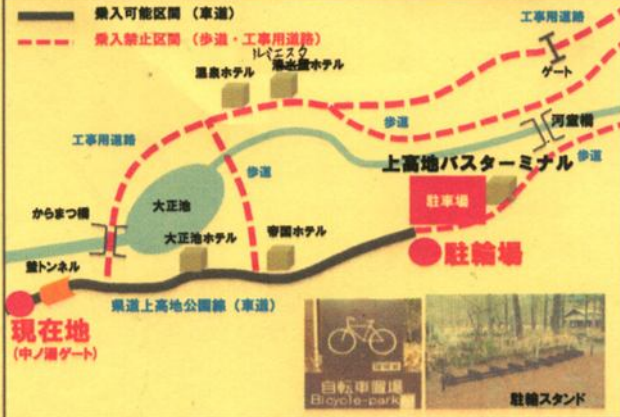
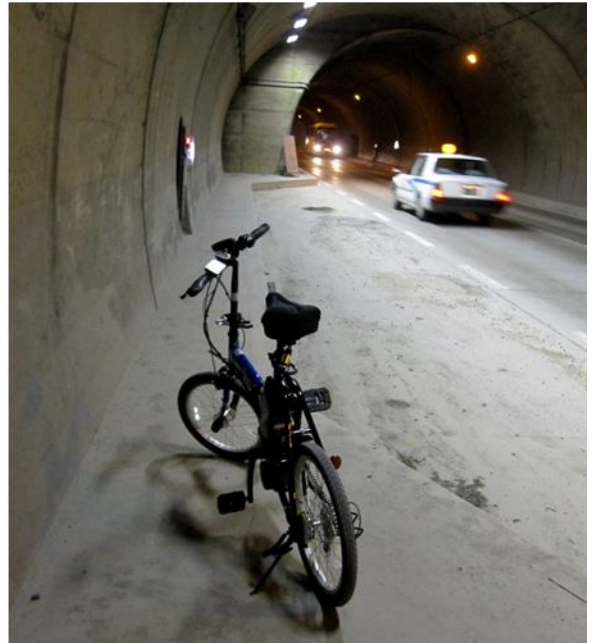
半端で、自転車には走りにくい。だからといって車道はもっと危ない。途中休める場所も一ヶ所しかない。

**上高地バスターミナルより先へは
自転車は入れません**

- 県道上高地公園線(車道)以外への自転車の乗り入れは禁止されています。
- 自転車は上高地バスターミナル(駐車場)向かいの駐輪場に停めてください(裏面地図参照)。

松本自然環境事務所 中信森林管理署
松本砂防事務所 松本市

お問い合わせ先:環境省 上高地自然保護官事務所 Tel:0263-95-2032

その間も、タクシーや観光バスがどんどん追い抜いてゆく。こんなトンネルを、自転車で上っているおっさんを見て、一様に驚きの表情だ。一番怖いのは、その自動車のエンジン音が、トンネル全体に響き渡っていることだ。これは、何度通ってもホントに怖い。

しかし、かつての「旧釜トンネル」時代は、自転車とバス1台ですら、すれ違えないほどの幅しかなかったという。勾配も165%と激烈なる急坂で、バスのク

ラクションを背に、自転車を押して上がったそうである。そんなわけで、自転車乗りの間では「恐怖の釜トン」と呼ばれていた。私にとっては、今でも十分に「恐怖の釜トン」である。

停止すると、警備員さんからこんなカードを渡された。「自転車は入れません」の大文字に、規則が変わったのかと一瞬ギョっとしたが、何のことはない、河童橋手前のバスターミナルから先は、自転車も入れませんよ・・・というお知らせだった。こういうお知らせを配布している・・・ということは、これを守らない不届き者が後を絶たない・・・という証拠でもある。ルールは守って楽しみたいものである。

釜トンネルの勾配は、全線で110%(パーミル)。1000メートル進んで110メートル上る急登だ。釜トンネルは延長1310メートルなので、約150メートルの標高差を一気に上る計算だ。一応歩道はあるが、幅が中途



「恐怖の釜トン」
作図 ; C. Tanaka